



防災についての実践研究 「溶岩流について正しく知り、そなえよう」

町の教育センターでは平成25年度に「富士山学習研究会」を立ち上げ研究を進めてきました。富士山科学研究所と町地域防災課、ケーブルテレビ河口湖との連携により共通教材を開発し、授業実践や研究員の研究会を行っています。この研究は、子どもたちの防災教育の推進と先生方の指導力向上を目的としています。

富士山の麓で生活する私たちは、近い将来起こり得ると言われている富士山噴火に備えておく必要があります。富士山噴火で起こる現象の1つに、溶岩流の発生があります。この溶岩流に焦点を絞り、研究授業を行いました。開発された実験キットとマニュアルを用いて溶岩流



小立小6年1組



小立小6年2組

実験を行い、「溶岩流の性質や危険性について正しく知り、富士山噴火が起こった時冷静に判断し行動しようとする態度を養う」ことをねらいとした授業です。授業は10月24日（木）、小立小学校6年生の子どもたちを対象に実施しました。

授業のはじめに、担任の流石千夏先生・渡會裕輝先生から火山や溶岩について説明がありました。子どもたちは写真を見て溶岩流をイメージしたり富士山の火口がどこにあるかを考えたりしました。そして、もし富士山が噴火したら、溶岩はどこに流れるのか、自分たちが住んでいる地域は危ないのかを溶岩流実験で検証しました。

実験は、富士山学習研究員の先生方、富士山科学研究所の先生方と一緒にグループに分かれて行いました。予め指定しておいた5つの噴火口から溶岩流がどのように流れるかを予想し、立体模型にペンで予想を書き込みました。その後、溶岩に見立てた液体を流し、液体がどのように流れていくかを観察しました。予想と合っていたり予想と違う方向へ流れたり、子どもたちは液体の動きをじっくりと観察していた様子でした。



地質図模型を使って確認



溶岩が流れる方向を予想



実際に液体を流して観察

実験の終わりには、過去の噴火を示した地質図模型を見て、一度の噴火で富士山全体が溶岩で覆われたのではなく、何回も噴火を繰り返して今の富士山の姿になっていることを学びました。そして、もし富士山が噴火したらどのように避難すればよいかをそれぞれのグループで考えました。



授業のまとめでは、溶岩流が発生した場合のシミュレーション動画を見ました。溶岩流が自分たちの住んでいる地域まで流れてくるかどうかは、噴火時の火口がどこになるかによることを学びました。そして、溶岩流が流れる速さは富士山の高い方では速く、麓では人が歩く程度の速さになるので、慌てずに溶岩流の流れに対して横方向に歩いて逃げれば避難できることも確認できました。

今回の授業の様子は、富士河口湖町のCATVでも放映される予定です。研究を積み重ねて取り組んでいる防災教育の実践授業の様子をぜひご覧いただけたらと思います。

もし富士山が噴火したら…

- ・町からの防災無線や防災アプリ、テレビなどの正式な情報を得る。(SNSなどによる誤情報に気をつける。)
- ・家族とどこで待ち合わせするかを、家族で事前に話し合っておく。

CATV 放送日

11月15日(金)、16日(土) 16:03～
＜再放送＞

11月26日(火) 13:03～
28日(木) 21:03～

今年度の木工教室が終わりました

6月より小学校3・4年生を対象に西湖野鳥の森で行われてきた木工教室が、11月初旬に全日程を終えました。2学期には大石小・河口小・西浜小・大嵐小・富士豊茂小の3年生の金槌を使う学習も行われ、秋らしい作品がたくさん見られました。今年度も

生き生きと活動する子どもたちの姿、思い思いに作られた傑作を見ることができました。自然の材料に触れ、道具を使い、一人一人が思いを形にできた教室となりました。



＜講師として指導した教員 OB の先生方＞



希代 修先生



倉澤 成彦先生



古屋 庄一先生



渡辺 正利先生

就学時健診がありました

10月7日(月)～9日(水)に、勝山ふれあいセンターで就学時健診がありました。4月から1年生になる子どもたちが保護者の方と一緒に集合し、健診を受けました。終わりには、黄色い帽子のサイズも確認しました。あと半年、楽しい思い出をいっぱい作って、元気な1年生になってほしいと思います。先生方のご協力ありがとうございました。



第75回 親善音楽会 開催♪

10月23日(水)に、河口湖畔教育協議会主催による親善音楽会が河口湖ステラシアターにて開催され、5年ぶりに子どもたちが集まりました。どの学校も練習してきた成果を一生懸命発表しました。素敵なハーモニーが響いたとても素晴らしい音楽会となりました。この様子は、CATVでも放送されています。

